

一、一中節 「三番叟」

翁 花柳壽應
千歳 吾妻徳穂
三番叟 花柳輔太郎

60回記念公演最終日の序幕を飾るのは一中節の「三番叟」。古曲と言われる一中節らしいおおかさと洗練さを併せもつ曲です。60回記念を祝し今回は新振付にてご覧にいきます。
振付・二代花柳壽應

二、長唄 「水仙丹前」

若衆 花柳典幸
遊女 藤蔭静枝
吾妻節穂
泉 翔 蓉
坂東以津緒

若衆と遊女の五人で踊る、目にもあざやかな「水仙丹前」です。水仙の花の姿や若衆振り……、歌詞にも唄われているように歌舞伎舞踊らしい美しさで舞台を彩ります。
振付・藤間藤太郎

三、清元 「吉原雀」

男 藤間勘次
女 花柳真理子

吉原雀とは、廓の事情に通じた通人のこと。舞台は江戸吉原で、理屈抜きに廓気分を味わえる一番です。男女の(放ち鳥売り)が、粋で艶っぽい廓遊びの雰囲気を感じさせる、変化に富んだ演目です。

四、長唄 「勝三郎連獅子」

親獅子 尾上菊之丞
仔獅子 花柳壽輔

杵屋勝三郎作曲の連獅子で、内容は他と同じく獅子の子落とし伝説を基にしています。素踊りながらダイナミックな勇壮さが特徴で、仔獅子の激しい振りも大きな見所です。
振付・初代花柳壽輔

五、長唄 「江島生島」

江島・江島に似た海女 海女
花柳寿美 花柳大日翠
生島新五郎
猿若清方 若柳薫子
旅商人
若柳宗樹 若柳美香康

江戸時代の実話を基にした、大奥の女中・江島と歌舞伎役者・生島の身分違いの哀しい恋を描きます。流刑となった生島の夢から始まり、また江島と江島に似た海女を一人で演じ分けるなど、演出的にも工夫された舞踊劇です。

六、創作 「にっぽん

まつりの四季

一、清元 「海と空」

西川扇左衛門 花柳静久郎
西川扇重郎 花柳昌克
西川扇衛仁 花柳昌鳳生
西川大樹 藤間仁鳳
花柳輔蔵 若柳吉優

自然界の海(波)と空(風)の争いを、男性舞踊家による素踊りでダイナミックに描きます。実はこの世の欲の争いを皮肉るといふ作者の隠された意図もある異色作です。
作詞・青木以佐夫 作曲・松原奏風
振付・花柳輔太郎

二、一中節 「石橋」

夜照法師 松島金昇
山人 花柳寿太郎
獅子 泉 秀 樹
花ノ本海
藤間章吾

能の「石橋」を下敷きにした(石橋もの)の一つで、一中節の名曲として知られています。高い格調の中に、しっとりとした情趣や獅子のくるいも織り込まれた魅力の一番です。
振付・藤間藤太郎

三、常磐津 「栗餅」

花柳甄一
藤間仁章

にぎやかに現われるのは江戸の町の栗餅屋、威勢よく餅をついて売り歩きます。江戸の町の風景がよみがえるような、うきうきとした気分にあふれる軽やかな踊りが楽しめます。

四、長唄 「阿吽」

若柳壽延
藤間蘭黄

浅草寺仁王門の金剛力士像、阿形と吽形。娘や飛脚の願に耳を傾け、はたまた相撲の取り組みまで始めるという痛快な作品。名手・三世長十郎による曲も聞き逃せない一番です。
作詞・石川潭月 作曲・三世今藤長十郎
振付・若柳壽延

五、義太夫 長唄 「浜松風」

小藤 藤間恵都子
此兵衛 西川扇与一

舞台は須磨の海岸。松風の怨念が乗り移った小藤に、此兵衛がからみます。古風でおおどかな雰囲気魅力の演目で、特に派手な立ち廻りで見せるさまりの見得の数々が見所です。

六、創作 「にっぽん

まつりの四季